

とばたの風

第35号

2012年5月発行

発行責任者
配川 寿好

北九州市戸畑区
天籟寺1丁目1番15号
Tel.873-3735
(部内資料)

あります! 消費税にたよらない 現状打開の道が...

日本共産党が「提言」を発表しました

その1



税金の使い方変える 公共事業、軍事費のムダなくす

とにかくムダ使いが多すぎます。八ツ場ダムや大都市圏環状道路など不要・不急の大型公共事業、1機100億円もする戦闘機の購入や米軍への「思いやり予算」などの軍事費、原発推進のための予算などを削れば、年間で3・5兆円の財源が出てきます。

その2



税金の集め方変える 大企業・金持ち減税やめる

国民の貧困が広がり、国の財政は危機的だと言われるなかでも、大企業や富裕層には減税が繰り返されてきました。現在の大企業や富裕層に手厚く減税している不公平税制を改め、当たり前の税金を納めてもらえば、年間で8〜11兆円税収が増えます。

ご存知ですか?

大企業は消費税を負担してないことを

消費税大増税の震源地は財界です。法人税の減税を強く要求し、その穴埋めとして「国民には広く薄く負担を」と求めてきました。

大企業は、消費税を下請け企業に転嫁できることや、戻し税など各種優遇制度で手厚く減税されています。

庶民や下請け中小企業に重たい消費税も、大企業には痛くもかゆくもないのです。日本共産党は、財界・大企業から献金を受け取らない政党だからこそ、こうした問題を正面から指摘することができます。

こんなこと やめたらどうです?

政党助成金...年間320億円が税金から
(国会議員457人分に相当する経費です)

政党助成金交付予定額 (2012)

政党名	金額
■民主党	約165億円
■自民党	約102億円
■公明党	約23億円
■みんなの党	約11億円
■社民党	約7億円
■国民新党	約5億円
■その他	約7億円

※日本共産党はもらっていません



消費税増税ストップ

第83回北九州統一 ミーデー集会

5月1日、小倉城天守閣前広場には、北九州市内の労働組合、民主団体の人たちがたくさん集まりました。くらしを破壊する消費税増税に反対するアピールを採択しました。



戸畑まちづくり計画に沿って、戸畑の再開発が進められている。戸畑図書館は、二〇一四年三月までに旧戸畑区役所に改装移転する。旧戸畑区役所の建物を残し有効利用できることを喜ぶたいが、初め旧戸畑区役所は耐震強度が足りないということであった。新しい強度設計に依ると強度は十分達成されるようだ。ちよつと心配な気がするが...▼さらに浅生小学校、浅生球場周辺の再開発の青写真も発表された。それによると温水プールもできるようだ。これも市民の要求が実現したものと喜ぶたい。ところがそれに伴って現在の岩が鼻プール、西戸畑プール、仙水児童プールが廃止されると聞いて驚いている▼子どもが小さかった頃、仙水児童プールにはよく通った。浅いプールで全体を見渡せる広さなので安心だった。一歳の孫が遊びに来たら連れていけると楽しみにしていた。親子リズムをやっているお母さんたちも、夏は親子のグループで常連だ。小学校高学年になると、子どもたちは友達と連れ立って自転車や岩が鼻プールに出かけたものだ▼温水プールは年中泳いで日焼けもせず大人には嬉しい施設かもしれないが、子どもたちには真夏の太陽の下、学校プールと違う世界を楽しませたいものだ。既存プールを廃止しないよう、市に再考を求める声が上がっている。運動につなげた



東芝労働者の雇用守れ



北九州市会議員
荒川 徹

同工場門前に立つて繰り返し労働者を激励、3月の市議会では、「(東芝に)雇用等に対する社会的責任を果たす」ことを求める決議を可決させました。

北九州の経済にも大打撃

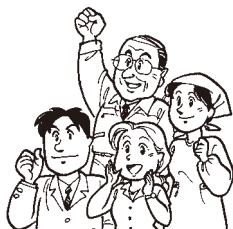
500人以上が働く北九州工場の閉鎖時期が迫っています。日本共産党は、工場閉鎖発表直後の昨年12月、「雇用と関連企業の経営守れ」と、国の出先である福岡労働局、九州経済産業局に要請。翌1月には、国会議員団を通じて東芝本社、2月には北九州工場に申し入れました。その間、

市はこれまで、東芝が国の補助金を受けるためにお膳立てし、自ら補助金を出して支援してきました。その東芝は、「利益率が落ちたから」と、そそくさと撤退しようとしています。500人を超える労働者の賃金や関連企業への

の影響など、北九州経済にとつてのマイナスは年間数百億円にも及びます。

企業献金を受け取らない党だから

「東芝の内部留保、1兆7千億円の中の一部だけで雇用が守れる」、「一方的に労働者に犠牲を押し付けるな」と日本共産党が言えるのは、企業献金を受け取らない党だからです。これからもみなさんと力を合わせて、「雇用を守れ」の声を上げ続けます。



「意欲あるものに年齢なし」を地でいく

角光 智子さん (小芝在住 83歳)



とにかく元気！よどみなく出てくる言葉に自信があふれ、立ち座りの所作も若々しい。夜宮公園で毎朝ラジオ体操を続けて25年余、一日おきに1万歩のウォーキングを1年間続けて市から表彰も受けました。日本舞踊花柳流の名取としても活躍中で、踊る姿は20歳くらい若く見えます。加えてご詠歌も20年以上の実績で、5月には知恩院で行われる1級検定に挑戦するそうです。

早寝早起きに心がけ、食べるものは野菜を中心に全て手作りにこだわって来ました。これだけ健康にこだわるのは、夫や両親など近親者が若くして病死した経験からです。

3人の子どもを育て上げた後は、北九州市の母子寡婦福祉会等ボランティア活動にも励んで、現在は母子寡婦福祉会戸畑支部の副支部長を務めています。

これだけ忙しくても、市政だよりを丹念に読んで筋力トレーニングやストレッチ講座にも参加しています。健康を保とうと始めたウォーキングや体操から生きる意欲がひきだされ、また次の活動へと連鎖反動的に角光さんの活動は拡がり、そのエネルギーは多くの人も変えていったようです。角光さんの周りにはいつも元気に笑いかう仲間がいます。

意欲あるものに年齢なしをモットーに、100歳を超えても意欲にあふれた生活を送っておられることでしょう。

恒例 後援会のお花見

4月7日(土)、花冷えの中でしたが、約70人が参加しました。バナナの叩き売りの実演もあって、楽しく過ごしました。



地名に秘められた戸畑の歴史

戸畑郷土史会会員 小石 善則

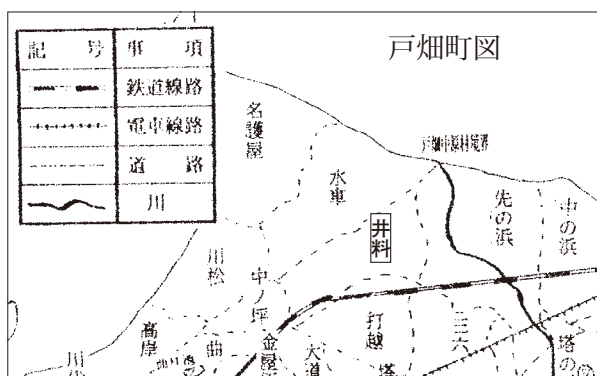
小字「井料」(通称「泥田」) 前々号に紹介しました「打越」すなわち鉄初のお祀をする田の隣に、井料は位置します。

井料は、農業用水の維持管理に多額の経費がかかるため、その経費を捻出するための田を井料田といったことに由来します。荘園領主(領家)・地頭などが設定した直営田を云い、水利権の強い地域にあったことから、領主に権力が集中していった荘園制社会にいった字名であろうと思われます。

この井料田の耕作は、領主に直属する下人・所従が行うこともあれば、一般農民が動員されて耕作することもあります。ただ、一般農民が動員された場合は、種子・農具・食料など必要経費は支給されたようです。

そうであっても農民の負担は重く、動員はしばしば領主と農民との間に緊張を生じさせ、その緊張を緩和するものとして、領主側は隣接地に仏・神田(神社)または観音堂・弥勒堂などの年間の経費を賄いだす、領主直営の田で、そこから転じて「堂田」「道田」という小字名が出来てきたようです。

その田で行われる花田植は、着飾った早乙女達が飾り付けられた牛を使い、笛や太鼓にあわせて稲を植えていく。一年の農耕のはじまりを祝う。娯楽の要素もあったそうです。花田植が終われば振舞い酒もあって、井料・仏・神田の併設は調和のとれた秩序として農民に受け入れられました。



また西鉄電車が走っていた頃、幸町から渡し場までの間に「泥田」という停留所があった。戸畑製鉄所に通勤する幾万の人たちが降りていました。この「泥田」は堂田、道田と呼ばれていたものが、長い年月の間に言葉も訛り、すりきれ、歴史の痕跡は消えうせても「どんだ」の地名だけが生き残ったのだと、私は思い続けています。